令和4年度 第4回

宍粟市教育委員会

会 議 録

(要点筆記)

日時 令和4年7月15日 午前9時30分から

場所 宍粟市役所 4階 402・403会議室

第4回（定例）宍粟市教育委員会会議録

● 開会・閉会の年月日時及び場所

令和4年7月15日（金） 午前9時30分～午前10時20分

兵庫県宍粟市山崎町中広瀬133番地6 宍粟市役所 4階 402・403会議室

● 会議に出席した者の職氏名

教育委員

中田直人 教育長

片山繁樹 委員

金本一二 委員

飯田さおり 委員

中川まゆみ 委員

事務局

大谷奈雅子 教育部長

小河秀義 教育部次長

進藤美穂 次長兼教育総務課長

岩薮貴裕 こども未来課長

西林文隆 次長兼施設整備課長

谷尻博誉 学校教育課長

水口恵子 社会教育文化財課長

池本雅彦 次長兼山崎学校給食センター所長

中尾善弘 次長兼まちづくり推進課長

梶原昭一 人権推進課長

岩本浩二 教育総務課副課長

1 開会

中田教育長が開会した。

2 会議の成立宣言

出席者数5名となり、中田教育長が会議の成立を宣言した。

3 会議録署名委員の指名

署名委員は、中田教育長の指名により、飯田さおり委員に決定した。

4 前回会議録の承認

令和4年度第3回（定例）宍粟市教育委員会会議録の承認に関する件
前回の会議録について、進藤次長兼教育総務課長が説明し、承認された。

5 教育長報告

次の3点について、中田教育長が報告した。

(1) 宍粟市田中登奨学金寄附金の確認について

6月22日に、寄附申出者の齋藤和子様から、宍粟市口座への寄附金5千万円の着金を確認

した。齋藤様には、市長より感謝状を贈呈し、子どもたちの教育のために多額のご寄附をいただいたことへの感謝の意を表したいと考えている。なお、本日の議事として、田中登奨学金支給条例施行規則の制定案について審議いただくこととしている。

(2) 小中学校・幼稚園・こども園幼稚園部の夏休みについて

6月中旬以降の県の新型コロナウイルス感染症の新規陽性者は、再び増加に転じており、全国的には、オミクロン株の新たな派生型「BA. 5」がさらなる増加要因となっている可能性が指摘され、政府分科会では「第7波に入った」との認識が示されている。

小中学校、幼稚園、こども園幼稚園部では、7月21日から8月31日までの間、夏休みに入るが、児童生徒・保護者・教職員に対し、感染症対策の注意喚起・周知徹底をお願いするとともに、児童生徒にはこの夏だからこそできることにチャレンジし、有意義な時間を過ごしてもらいたい。また、教職員には、この期間の研修等を通じて指導力等のスキルアップを図ることで、2学期に向けて十分な準備を行ってもらいたい。

(3) 工事等の契約関係

城下地区の認定こども園の整備では、6月20日に用地造成設計及び開発許可申請等に関する委託業務について、相生市のイープラン一級建築士事務所と10,406,000円で契約し、秋以降の開発許可、造成工事に向けた準備を進めている。

また、この夏休み期間を利用し、蔦沢小学校の改修工事については、校舎の内外装の全面的な改修を進めている。

6 議事

第5号議案 宍粟市田中登奨学金支給条例施行規則の制定案について

資料1～10Pにより、田中登奨学金の支給に関し必要となる申請手続、資格基準、支給日、支給の決定の取消し等について定めた「田中登奨学金支給条例施行規則」の制定について、進藤次長兼教育総務課長が説明した。

審議の結果、第5号議案は、提案どおり可決した。

7 協議報告事項

(1) 令和4年7月～ALTの配置予定について

資料1【11P】により、進藤次長兼教育総務課長が説明した。

(2) 通学路交通安全推進協議会の協議状況について

資料2【12P】により、進藤次長兼教育総務課長が説明した。

(3) しそうの子ども生き生きプラン後期基本計画の策定について

資料3【13～14P】により、谷尻学校教育課長が説明した。

(4) 小中一貫教育に係る取組と今後の予定について
資料4【15P】により、谷尻学校教育課長が説明した。

(5) 令和4年度 宍粟市人権教育講演会について
資料5【16P】により、谷尻学校教育課長が説明した。

委員の主な意見及び事務局の説明

(片山委員)

通学路交通安全推進協議会の協議状況について、昨年度に発生した千葉県八街市の事故を受け一斉点検を実施されたとのことだが、集約された危険箇所のうち、対策・未対策の件数がわかるようであれば教えてもらいたい。

(進藤次長兼教育総務課長)

正確な件数がわからないため、委員会終了後に一覧表をお渡しする。

(6) 社会教育委員の委嘱について
資料6【17P】により、水口社会教育文化財課長が説明した。

(7) 学校給食における異物混入状況及び対策について
資料7【18P】により、池本次長兼山崎学校給食センター所長が説明した。

(8) 宍粟市スポーツ推進計画策定状況について
資料8【19～26P】により、中尾次長兼まちづくり推進課長が説明した。

(9) 令和4年度 宍粟市スポーツ推進委員について
資料9【27P】により、中尾次長兼まちづくり推進課長が説明した。

(10) 若者フォーラム in 宍粟について
資料10【28P】により、梶原人権推進課長が説明した。

(11) その他

幼保一元化推進事業に関する事項について

追加資料により、(仮称)城下地区認定こども園にかかる造成設計及び開発許可申請業務について、岩路こども未来課長が説明した。

委員の主な意見及び事務局の説明

(金本委員)

7月7日の学校給食は、七夕汁(ソーメンを天の川、オクラを星に見立てたもの)が出されたと聞いた。宍粟産の食材を活用しながら、季節に合わせた献立も考えていただき、あらためて宍粟の給食は素晴らしいと感じた。

(池本次長兼山崎学校給食センター所長)

統一献立の中で対応しているものになり、7月7日の七夕のほか、それぞれ行事や季節に合わせて、3センターとも同じものを提供している。

(片山委員)

パイナップルへの蟻の混入の件で、味のことを考えるとパイナップルは水に沈めると水っぽくなるため、その手法は取りづらいという話だったかと思うが、私が出荷しているブロッコリーでは虫の混入対策として水に沈める方法は有効で、強い流水でも虫は完全に除去できないが、水に沈めていると苦しくなるのか浮かび上がってくる。

味はもちろん大切であるが、何度かパイナップルでの蟻の混入が起きているようであれば、水に沈める対策も検討されたい。

(池本次長兼山崎学校給食センター所長)

委員の言われるとおりにかと思う。ただ、特に果物については、水分をすぐに含んでしまうため、留意する必要がある。今後も細心の注意を払いながら、安全でおいしい給食の提供に努めていきたい。

(中田教育長)

スポーツ推進計画の策定状況について、資料22ページの計画の位置づけで、本市の社会教育振興計画のスポーツ分野を抽出した形で、宍粟市スポーツ推進計画として独立させた計画であること。そのため、ここに掲げるスポーツというのは、社会教育、生涯学習につながるスポーツ分野であり、学校体育は反映されないという認識でよいか。

また、現在、国でも検討している部活動の地域移行について、現状では、部活動とは、学習指導要領の総則に教育活動の一環として学校教育の位置づけがなされている。

しかし、学習指導要領は10年ごとに改定されており、直近の改訂は平成29年であり、次期改訂は令和9年あたり、それに向けた議論は令和7～8年と想定され、そのタイミングで部活動は教育活動から外れる可能性もある。そうなった場合、部活動は、スポーツ推進計画に位置づける必要があるが、このスポーツ振興計画の見直しは令和9年度を目途にということで、少し間に合わない。

そのあたりの問題について、教育委員会事務局とスポーツ担当部局との間で、課題の整理・共有を図られたい。

(中尾次長兼まちづくり推進課長)

教育長が言われたとおりであり、国のスポーツ庁が文部科学省とは別に組織されたことを受け、指摘のあった部分の整理について国でも始まっていると認識している。

現状での国の考え方は通知が発出されており、今年度になって以降、教育委員会と市民生活部との間で、担当者レベルで打合せを行い、先日は、実際に中学校の校長先生にも参加いただいて、連携をとっている。

このスポーツ推進計画に部活動の地域移行のことを具体的に明記するのは非常に難しいと考えているが、何も明記しないというわけにもいかない。どこまでこの計画に盛り

込めるかは別として、今後、国の方針に沿って、市としても計画の中で対応策を検討していくことは必要であると認識しており、また、計画を策定したら終わり…というわけではなく、随時、その計画内容について、見直しを図る必要がある。

今後も、宍粟の子どもたちのために有益な対応がとれるよう、教育委員会と連携して進めていきたい。

(中田教育長)

計画の中のスポーツの定義について、部活動の地域移行については、記述できなくとも、子どもたちが行う部活動や学校体育もスポーツであるわけで、定義上は含まれてくる。また、青少年スポーツという分野について記載があるが、一般的な感覚でいうと、青少年スポーツのなかには、当然、部活動や学校体育も含まれると考えられる。

計画には反映されずとも、子どもたちの体力づくり等については、学校教育との関連の中で育まれていくという理解があってもいいかと思う。

(中田教育長)

計画の中で「健幸」という造語が出てくるがユニークな言葉だと思う。この造語を造られた経緯や思いを教えてください。

(中尾次長兼まちづくり推進課長)

担当者が思いを込めて考えた言葉で、先日の策定委員会で、委員からも承認をいただいた。

今回のスポーツ推進計画は、いわゆる競技スポーツや部活動の競い合う部分を超えて、生涯現役で、子どもからお年寄りまでみんなが、スポーツを通じて、体力づくりであったり、生きがいづくりであったり、心身の健康と幸福を実感しながら過ごせる“まち”をめざしていこうということで、この思いが「健幸」という造語につながった。

福元市長も、スポーツを通じたまちづくりということで、かねてより「スポーツ立市」という言葉を使われているが、この思いを計画に盛り込んでいこうということで、今回「健幸」という造語を用いて、基本理念を策定している。

こういった観点から、国県が策定しているスポーツ推進計画よりも少し範囲を広げ、市民の皆さん一人ひとりが、取り組みやすい計画を策定したいと考えている。

7 次回会議の招集について

令和4年8月17日（水）午前9時30分から、宍粟市役所4階402・403会議室において、令和4年度第5回宍粟市教育委員会を開催することとした。

8 閉会

片山委員が閉会した。